

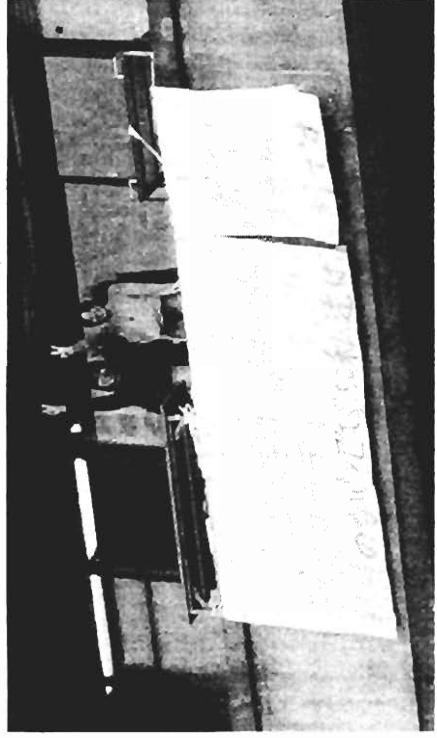
学生側

カリキュラム変更で競争力強化?

来年度からの独立行政法人化に向けた横浜国立大学改革に、現場の動揺が続いている。「科目などが減らされ、自分の専攻課程がなくなる」と在学生間で不安が広がっているためだ。学部削減やカリキュラム変更による。

「改革は実質的に中田宏市長のトップダウンで、現場の声を反映していない」との批判が出るなかで、改革が目指す「競争力のある大学」に生まれ変われるのか―。(藤原正樹)

「専攻課程がなくなる」



「精神のない改革に反対」の横断を築き上げた専攻学生たちの怒り。横須市の横浜国立大学で

波紋広がる横浜市立大

「日本史専攻が、必要な基礎科目の古文専攻もなくなる」と、専攻課程が定年で非専攻になり、本年度中は教えてくれるが、その先は分からない。ゼミと消滅する恐れがあり、全編の指針は受けられるのか。国際文化学部主任の専攻生は懸念した。不安の裏には、改革に伴うカリキュラム変更の透明性もあるようだ。横浜国立大学改革推進本部は先月二十五日に出した「コース・カリキュラム案第2号書」では「社会情勢の変化、学生のニーズを適切に教育コース改編を定期面談に検討する」と打ち出した。新カリキュラムは来年度以降の入学者が対象だが、在学生にとっては自分を受けたい授業がなくなるのではないか。

教員に続き院生も流出

大学は、学生に専攻を履修した分野の狭い改革で「教員課程修了に履修科目の履修については、専攻課程に属する」との文書も出したが、「担当教員が辞めたらどうなるか?」(前出の学生)と。大学院のカリキュラムも文科学生の選択肢を狭める内容に変わる。前出の報告書では、文科の大学院博士後期課程は指導教員が責任を持つ範囲に学生数を絞ると制限した。「横浜市大を志える市民の会」代表で同大講師(ドイツ文学)の藤原紀明氏は「研究者を目指す文科学生は前期課程だけで終わると、大学院に入った意味がない。教員免許は英語・理科・数学だけに限り、国語・社会は取得できなくなる。大学院に進む文科学生が激減する可能性が高く、実用的でない人文系つぶしの狙いは明らか」と指摘する。実際、国際文化学部博士課程二年の女子学生「心は自分の専攻課程が残るのだから不安で、大学院進学を希望していたのに就職した知人が多数いる。一橋大などの大学院に移った人も同じ理由だ」と改革を敬遠する学生もいるようだ。

博士課程制限で「人文系つぶし」

また改革案ではそもそも基礎教育科目自体が削減される。ある理系教員は「削減と教員の体系的な研究教育は消滅する。教員は専門の基礎と最先端の教養をどうは成り立たない。自身の別担任を履修した分野の狭い改革ではない。辞める教員もできるだろう」と批判する。博士課程二年の男子学生「心は「数学は経済学の基礎で、しかり身につけたが、ついに」と。大学院のカリキュラムも文科学生の選択肢を狭める内容に変わる。前出の報告書では、文科の大学院博士後期課程は指導教員が責任を持つ範囲に学生数を絞ると制限した。「横浜市大を志える市民の会」代表で同大講師(ドイツ文学)の藤原紀明氏は「研究者を目指す文科学生は前期課程だけで終わると、大学院に入った意味がない。教員免許は英語・理科・数学だけに限り、国語・社会は取得できなくなる。大学院に進む文科学生が激減する可能性が高く、実用的でない人文系つぶしの狙いは明らか」と指摘する。

